

令和2年度 第3回 向島まちづくりビジョン推進会議 要約

開催日時	令和3年3月20日（土・祝）12時10分～13時10分
開催場所	むかちゅうセンター（元向島中学校）体育館
出席者	増田委員，板原委員，長谷川委員，日高(幸)委員，小山委員，中條委員，藤田委員，福井委員，野崎委員，日高(秀)委員，橋本委員，平田委員，山内委員，珍田委員，山崎委員，富田委員，阪内委員，池田委員，村重委員，上野委員，杉本委員，高田顧問，田中オブザーバー，大熊オブザーバー
欠席者	荻委員，津田委員，佐々木委員，五藤委員，今田委員，桑原委員，角野委員，片桐委員，宿谷委員，正置委員，望月委員，児玉委員，榊井委員，雪丸委員，高山委員，久保委員，馬道委員，藪川委員，岡本委員，中村(黨)委員，前川委員，中村(祐)委員，小林委員，乾顧問，加藤顧問，遠山オブザーバー
事務局	京都市 都市計画局都市企画部都市総務課 池田，片山 まちづくりアドバイザー 亀村 株式会社地域計画建築研究所（アルパック）戸田，竹内，小川，太田
公開・非公開	公開
傍聴者	2名
議題(案件)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開会 ○ 議題 <ul style="list-style-type: none"> 1 向島まちづくりビジョン各取組の実施結果と4年間の評価について <ul style="list-style-type: none"> ・総括の集いの振り返り 2 令和3年度以降（ビジョン後）の取組と体制について <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年4月以降の予定について 3 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・向島まちづくり通信第22号発行予定（令和3年3月29日） ・向島まちづくりビジョン総括の集いのとりまとめ・報告書 ○ 閉会
資料	<p>資料1 ビジョン総括資料及び取組一覧表（総括の集い資料と共用）</p> <p>資料2 山崎委員・福井委員・増田委員提出資料</p> <p>資料3 まちづくりビジョン後（令和3年度以降）の体制について</p> <p>参考資料1 向島まちづくりビジョン推進会議 委員名簿</p> <p>参考資料2 向島まちづくりビジョン推進会議 規約</p>

議 事 の 経 過		
発言者	発言の内容	(敬称略)
日高(秀)議長 池田(事務局) 日高(秀)議長	<p>■ 開会</p> <p>(挨拶)</p> <p>(資料確認)</p> <p>(議題の確認)</p>	
池田(事務局)	<p>■ 議事</p> <p>1 向島まちづくりビジョン各取組の実施結果と4年間の評価について</p> <p>(1) 総括の集いの振り返り</p> <p><資料説明> (資料1)</p> <p>○ビジョンの4年間の取組の121項目については、A3の資料にまとめており、各ワーキンググループ(WG)でも内容や評価について見ていただいた。さらに、午前中に活動についても説明したので、個々の説明は割愛する。</p> <p>○また午前中の「総括の集い」で、第一部は各WG長の報告、第二部は意見交換を行ったので、事務局のアルパックから状況報告をしていただく。</p>	
戸田(アルパック)	<p>○ビジョン全体の総括は資料と先ほどの集いで確認を頂いたという前提で報告させていただきます。</p> <p>○主たる点は、「むかちゅうセンター」という拠点ができたことで、これまでの住民の取組が広がり、充実し、深まったという声が共通して聞かれた。これから活動場所や拠点をどうするかは、このビジョンが終わった後の大きな課題であるという共通した意見も出された。</p> <p>○また、この場に出席するのは限られた方だが、取組報告の資料や写真を見ると、いろいろな方が参加された4年間だったと改めて思う。まちづくりの活動に関わることで気付いたことや自分自身の変化も振り返られたと思う。</p> <p>○ビジョンの取組の進捗状況はA～Cで示されたが、課題が残るもの、道半ばのものもある。それらをどう引き継ぐかを宿題として残しつつ、4年の節目として振り返り、この場でもコメントを頂いて、今後引き継いでいきたい。</p>	
日高(秀)議長	<p>○4年間の総括や今後について、集いを踏まえた感想や意見があれば伺いたい。</p>	
山崎委員	<p>◆ ビジョンの意義について</p> <p>○何を目的としてビジョンが立ち上がり、その結果何ができたのかという総括的な評価については、住民が判断することになると思うが、市としてはどう考えているのか。各テーマ、プログラムの評価は報告されたが、このビジョンがなぜ始まり、それがどのようにテーマやプログラムに反映されたのかは</p>	

池田(京都市)	<p>どのように評価しているのか。始まりは局長も部長もおられたが、今出席しているのは池田さんだけなので、池田さんに市の意見を伺いたい。</p> <p>○京都市として答えると、5年前にこうしたビジョンを作ろうという話が、前任から各自治会や団体にあったと聞いている。ビジョンを作った結果、どうなったのかというと、このビジョンについて少なくとも4年間は集中して、まちづくりの機運を高める形で取り組んできたと認識している。</p> <p>○ここに集まった方々は元々互いに顔も知らなかったと思うが、この4年間は、顔見知りになり、まちづくりを進める仲間意識を持って機運を高められたのではないか。その結果、121項目がそれぞれ進展したが、それは1つの通過点であり、これから住民で取り組んでいく上での1つの機会ができたのではないか。そういう意味で、このビジョンは非常に有効だったと思う。</p> <p>○まちづくりはこの4年間で終わるわけではなく、続いていくものなので、これからの活動によって向島の未来が大きく拓けていくと認識している。</p>
山崎委員	<p>◆ ニュータウンの再生計画について</p> <p>○老朽化した施設の再生や高齢化して活性がなくなったコミュニティの再生、具体的には住民の助け合いの場づくりと、6割以上を占める市営住宅の再生が求められていたと思う。したがって、総括的なまとめをするなら、以下のことを是非入れていただきたい。</p> <p>○5年前にこのビジョンの検討が始まった時は、検討委員会に京大の建築、都市計画の高田先生と乾先生がおられたので、我々は向島ニュータウンの再生計画ができると期待したが、実際は、京都文教大学の団地研究会の先生がテーマ・プログラムを作られた。それが悪いという話ではないが、我々の期待と実際に報告されたものとの間に大きな落差があったのは事実だと思う。私を知る限り、向島ニュータウンの市営住宅の再生計画は示されていないので、早期に再生計画を作って欲しい。</p> <p>○それについて、高田先生は検討会議の会長で、住宅審議会の会長もされているので、これからの向島ニュータウンをどうしたら良いか、話を伺いたい。</p>
日高(秀)議長	<p>○会議の最後に高田先生からコメントを頂くので、その中で触れていただきたいと思う。他に意見はあるか。(意見等、なし)</p>
日高(秀)議長	<p>(2) 山崎委員・福井委員・増田委員からの要望書について</p> <p>○資料2として、山崎委員、福井委員、増田委員から発言されたい旨の提示があるので、3人のどなたかにご発言いただきたい。</p>

<p>福井委員</p>	<p><資料説明> (資料2)</p> <p>○今日までビジョン策定から推進会議, WG等を4年間積み重ね, 大きな成果が得られたと感じている。これは40年前にニュータウンができて入居が始まり, 40年経って, 市の協力でこの場が設けられ, 改善できたと評価している。</p> <p>○ただ, 入居時に見た向島ニュータウンのパンフレットには計画の見取り図があり, 10街区, 11街区は分譲住宅, 今の学生センターは医療施設用地としてレイアウトされていた。私が1981年に入居した時, 藤ノ木学区の建設はまだ始まっていなかったが, 10年後に完成した時には, 10街区, 11街区は市営住宅に変わり, 医療施設が来る予定の10街区には学生センターが建っていた。計画は最初の予定通りに進まず, その後の情勢の変化により, 日中国交正常化で残留孤児の方が市営住宅に住まれ, 災害が起こると被災者が市営住宅に入るといふことで, 市営住宅には困窮された方が入居する状況が続いている。</p> <p>○つまり, 理想の住環境が設定されたにも関わらず, 社会の変化等で市営住宅に入る方が増え, 住む人が変わってきた。40年間, 理想に向けた改善はされず, 大きな歪みが生じたまま置いていかれたように感じる。40年振りに大きく改革された中で, 一番大きな問題がそのまま残されたことは, これからの課題として京都市の責任が問われると思う。是非5~10年のスパンで, 定期的に向島ニュータウンのレイアウトの見直しを進めてほしい。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>○先の補足をしたい, ビジョンの検討という, 向島ニュータウン再生計画を作る折角の機会を京都市は自ら放棄してしまったと思う。市は財政難等もあり, 先に評価したまちづくりのテーマ・プログラム作りも京都市都市計画課のシナリオだったと思うが, 我々としては残念である。</p> <p>○普通のまちづくりであれば, 多文化共生や賑わいづくり, ツーリズムで良いと思うが, 向島ニュータウンの現状を見ると, 4,000世帯, 7,000人もの人が住む市営住宅が, 計画なしでは具合が悪いと思う。予算がないことと計画がないことは違う。ぜひ早期に向島再生計画を作って欲しい。</p>
<p>池田(京都市)</p>	<p>○昨日のまちづくり委員会で, 資料2の『「向島ニュータウンまちづくりビジョン」のまとめにあたっての要望』について, 議員から質問があり, 我々の部長が答弁したので, 部長のその答弁をこの文書に対する意見としたい。</p> <p>○具体的には「40年前のままの住居の改修計画とその実施予算の確保が早期に必要なだと地元からの要望があるので, 何らかの改修計画が必要ではないか」という質問で, それに対して部長は「建設後約40年が経過して設備の老朽化が進んでいるので, 引き続き検討していく課題だと考えている」と答弁している。したがって, それ以上の内容は, ここでは差し控えたい。</p>

	<p>○また要望書には、中学校跡地の活用について、地域住民の利用はあくまで暫定利用であり、将来は売却すること、市の財政改善のため、跡地に民間資本の分譲住宅や地域医療施設を建設し、一部を地域住民のための利用施設にする計画だと書いてある。これについては、京都市から向島中学校跡地の利用計画として決定したものを提示したことはないので、具体的に答えようがないが、昨日の委員会では、向島中学校跡地は売却せず、活用してほしいという地域のまとまった要望があるような雰囲気であった。</p> <p>○それに対して部長は、現時点で中学校跡地の活用について固まった方針はなく、この間地元からは「地域活動ができる場所がほしい」「若い世代が移住できる受け皿としての住宅が必要」という声があったこと、併せて隣の小学校跡地であしなが育英会がアフリカの遺児のための教育施設をつくるが、完成後には施設の一部を地域の活動の場として地元開放される予定なので、その進捗も踏まえて引き続き検討していくと答弁している。したがって、京都市としては、要望書に対してそのように答えさせていただきたい。</p> <p>○併せて「向島中学校跡地の活用について」という資料を配布しているので、この機会に現状中学校の検討がどうなっているかを説明したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1番は施設概要で、中学校の面積、校舎や周辺の状態を書いている。 ● 2番はビジョンにおける中学校跡地についての記載をまとめており、113番、18番、32番、112番の内容を抜粋している。 ● 3番は跡地活用に係る意見で、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つ目は、あしなが育英会の小学校跡地活用の際に出た意見の中から、中学校跡地に関する意見を抽出している。医療・介護の拠点を作りたい、住民の暮らしに本当に必要な活用をしてほしいという意見が出された。 ・ 2つ目は、コロナ禍のためWGから詰めた形で意見を聞けなかったため、WGやいろいろな地域団体の役員に個別で意見を聞いた。 <p>ア：まちづくり活動の拠点に関しては、引き続き何らかの形で現在の活動の拠点として残してもらえないかという意見が挙げられた。</p> <p>イ：分譲住宅に関してもビジョンに書いているようなことで考えてほしいとの意見も出ている。ただ一方では、運動場を作っても20～30年後は高齢化で同じことが起きるのではないかというネガティブな意見もあった。</p> <p>ウ：新たな誘致に関しては、高齢者が多いので、医療・福祉施設が来ると良いという意見があった。それ以外にWGでレストランが欲しい、パークアンドライドにしてはどうか等の意見もあった。</p> ● 4番は、ビジョンや意見を踏まえた活動の基本的な考え方だが、活用計画として決定したものはなく、方向性としてのイメージを書いている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つ目は、向島秀蓮小中学校が開校し、同校に入学希望の声が出ているの
--	---

	<p>で、子育て世代の受け皿として、ニュータウンのコミュニティミックスの観点からも分譲住宅は必要ではないかと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つ目は中学校跡地利用について、予想以上に活発に利用されているので、地元でも残してほしいという意見があり、あしなが育英会による小学校跡地の地元開放と組み合わせて、中学校跡地以外の活動拠点の残地の可能性やその方法、つまり、活動拠点として残せるかどうかと、どういう形で残せるかも検討している。 ・例えば、一部の校舎を残す方法、本格活用する事業者の建物の一部を地元開放してもらう方法等が考えられる。これは街なかの学校跡地を借り上げてホテルが建設され、その建物の一部を地元の会議室などに開放している例等も想定している。 ・3つ目は「跡地活用に係る意見」を踏まえ、高齢者が多く、医療や福祉施設の誘致を望む声があるので、実際はプロポーザル等の手続きを経て決めるが、そういう可能性も一つのメニューとして考えて良いのではないかとイメージを持っている。 <p>○現在、これらの方向で検討を進めているところである。</p>
山崎委員	<p>○暫定利用にはやはり違和感がある。もし市にきちんとした方針がないとすれば、市営住宅の再生計画のない分譲住宅の建設を除いて、これから方針を決めていただきたいし、元向島中学校跡地利用について方針を決める場合は、ぜひ住民の意見も聞いていただきたい。</p>
日高(秀)議長	<p>◆ 提出文書の扱いについて</p> <p>○他に意見がなければ、提出された文書について、推進会議としてはあくまでも一委員の意見として扱うという形で良いか。</p>
池田(京都市)	<p>○この文書の内容を踏まえて、昨日の委員会で質問されたので、あたかも住民の皆さんの意見と要望のように捉えられることもあり、また推進会議でこうした意見が出たということで、推進会議の総意だと誤解を招く恐れがある。そのため、敢えて日高(秀)議長は、要望書はあくまで3人の方から出された意見であり、推進会議の総意ではないという扱いで良いかどうかを確認されていると思う。</p>
日高(秀)議長	<p>○そういう主旨である。</p>
長谷川委員	<p>○どのような経緯でこういう議論をしているのか分からない。これはすでに市長に出されたのか、これから出そうとしているのか。またNPO法人向島駅前</p>

	<p>まちづくり協議会会長と二ノ丸学区社協の会長と中央公園愛護協力会の会長が個人的に出されたものなのか。この文書を見ると、ニュータウンまちづくりビジョンに関わる結論として提言されているように見えるが、私たちはこういうことを議論した覚えはない。</p>
日高(秀)議長	<p>○議長として、多様な意見が出るのは必要なことであり、吝かではないが、これを推進会議の統一した意見とすることには異議を挟みたい。したがって、一委員の意見と位置づけたいというのが私の提案である。</p>
長谷川委員	<p>○個人的な意見という扱いで良いのではないか。</p>
山崎委員	<p>○このまちづくりビジョン推進会議は市のプロジェクトであるため、市長宛てに意見を書いた。この文書は、検討会議、推進会議、住環境WGに委員として出席した我々3名の意見として、総括まとめに入れてほしいということであり、決して「なぜ出てきたのか」「誰宛てなのか」という話ではない。こういうことに気付いてほしかったということである。</p>
池田(京都市)	<p>○この文書の内容が推進会議の総意として扱うのか、そうではなくて3人の方の意見なのかを確認したいということである。宛先は「門川大作様」となっており、昨日の会議でもこの文書について質問があったが、都市総務課としては正式に受け取っていない。その中で部長は「この文書の扱いについては明日の推進会議(この会議)の場で議論されると聞いている」と答弁したので、ここに書かれている内容が推進会議の総意なのか、そうではなく、あくまで3人の方の意見と理解して良いのかを確認したかったわけである。</p> <p>○この文書について、私は否定も肯定もしていない。この文書の扱いを推進会議に提案されているので、推進会議としてどういう扱いをするのか、確認した方が良いのではないかとやっているだけである。</p>
日高(秀)議長	<p>○資料2の文書が午前中の4年間の総括の場に出され、京都市の方に出すという形になっていれば推進会議の総意とも言えたが、私もこういう文書を市に出すとは聞いていなかったの、一意見という捉え方をしたいと思った次第である。委員の皆さんはどう思われるか。</p> <p>○推進会議の総意と言われると賛同しかねるという捉え方だが、異議のある方はおられるか。一意見として異議なしという方は挙手をお願いしたい。 (異議なし)</p> <p>○では、この場ではこれは一意見として扱うことにする。</p>

<p>日高(秀)議長</p>	<p>◆ 跡地利用について</p> <p>○跡地利用にも触れられているが、これも大きな問題である。京都市もイメージで説明しているが、決まったものではない。ただ、引き続き地域の意見も聞きながら、必要に応じて説明してもらいたいという思いはあるので、一方的に進めるのではなく、住民の意見を聞きながら一緒に進めようというスタンスで宜しいか。（異議なし）</p> <p>○では、跡地利用についても、必要に応じて説明を受けながら進めるということを取り扱いたい。</p>
<p>戸田(アルパック)</p>	<p>2 令和3年度以降（ビジョン後）の取組と体制について</p> <p>(1) 令和3年4月以降の予定について</p> <p><資料説明>（資料3）</p> <p>○午前中の説明でも、4年は1つのきっかけで、スタートアップなので、これからは活動を続けていくとされた。それに合わせて、WGのリーダーの皆さんが議論してこれからの体制案を作られた。</p> <p>○これまでは街区の代表も参加して推進会議として進めてきたが、今後はWGの活動を主体に取り組んでいくので、WGを一番上に置いている。まだ検討している部分もあるが、これまでのWGのテーマを整理、統合して「暮らし安心」と「住環境」を1つにした6つのWGで継続することが確認された。</p> <p>○その上で、まちづくりはテーマごとに別々に取り組むのではなく、一体となって取り組むべきなので、WG間で連絡調整をしながら進めていくために連絡会を作って、最低年4回の会議を開催し、資金調達も一緒に議論しながら進めていくことを役割としている。</p> <p>○構成は下に書いた通りで、事務局機能は今まで京都市や我々が支援してきたが、今後は地域主体で、地域の代表、特にWGの事務局をされている方を中心に役割分担し、交代しながら担っていくことを想定している。また地元事業者として愛隣館や大学の方々も引き続き一緒に取り組んでいただける構成となっている。</p> <p>○さらに、全体で話をする場として全体会議を位置づけ、少なくとも年1回、地域全体、住民全体で話ができる場を作る。その時々でテーマは変わると思うが、そういうものもきちんと設けるように整理している。</p> <p>○情報発信は、魅力発信WGが中心となって『まちづくり通信』を継続的に出し、対外的にはポータルサイト等も使いながら情報、魅力発信をしていく。</p> <p>○裏面は前回も確認した内容なので割愛する。</p> <p><質疑応答></p> <p>（質問・意見等、なし）</p>

<p>日高(秀)議長</p>	<p>○では、令和3年度以降の体制について資料3の体制で進めて、必要に応じて考えていくということで良いか。（異議なし）</p> <p>○異議なしということで提案通り進めていくので、協力をお願いしたい。</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 向島まちづくり通信第22業発行予定（令和3年3月29日）</p> <p>(2) 向島まちづくりビジョン総括の集いのとりまとめ・報告書</p> <p><事務局の説明></p>
<p>戸田(アルパック)</p>	<p>○ビジョン検討から作ってきた『まちづくり通信』は、ビジョンとしては最終号になる22号を3月29日に発行する。本日はカラーコピーを配布している。</p> <p>○もう1点、4年前に作ったビジョンについては、個々の取組は一覧表で進捗状況を示しているが、目指していたまちの姿や方針に対しては、本日皆さんが話されたことを踏まえて「総括の集い」の報告書としてまとめを作り、次の体制に引き継げるようにしたい。その際は連絡させていただく。</p> <p><質疑応答></p> <p>（質問，意見等なし）</p> <p>■ 閉会</p>
<p>日高(秀)議長</p>	<p>○最後に、推進会議の顧問の高田先生から一言頂きたいと思う。</p>
<p>高田顧問</p>	<p><顧問のコメント></p> <p>○まず、先ほどの質問に答えさせていただくと、私は推進会議のすべてに出席していたわけではないが、出席した時は必ず、ハードを含めたニュータウン全体の再生計画を作り、それを整備することの重要性を述べてきた。それは現在でも変わっていないし、ますますその必要性が高まっていると思う。そういう観点で、今回で終わりとは思っていないので、今後もハード面を含めた再生に向けての動きを作っていただければと思っている。</p> <p>○ただ、ニュータウンという規模の大きな地域全体にわたる再生は、ニュータウンのマネジメントの仕組み作りを同時に行わなければ継続的な整備はできない。ニュータウンには公的な施設も多いので、それらの維持管理の問題も当然出てくる。それを含めたマネジメントの仕組み作りも同時にする必要があるので、むしろその仕組みをきちんと作っていただきたい。それは京都市にお願いしたいが、そういうものはすぐには立ち上がらないと思うので、そういう観点からの組織作りが必要だと思う。</p> <p>○もう1つ、先ほど山崎委員が指摘されたコミュニティの問題については、京</p>

	<p>都市の市営住宅の偏在に伴い、都心部分には市営住宅はなく、郊外に大規模な住宅団地ができています。向島ニュータウンはその1つの集中地区になる。市営住宅の問題だけではなく、特定の年齢、特定の収入層の人が大量に、しかも人為的に集中することに伴うコミュニティの問題は全国的に起こっており、コミュニティをノーマルな方向に作り直すためには、住宅供給の仕組みを見直さなければならない。</p> <p>○そういう意味での大規模公営住宅の再編は、京都市全体として取り組まなければならない問題であり、そういう議論も私のできる範囲でしてきたが、実際の施策に着地していない。近年では民間住宅の活用も含めて、逆に都心に市営住宅がないので、そういう問題も含めて、全体としてコミュニティのあり方を考えていくことが大事だと思う。</p> <p>○ニュータウンの中のハードの整備や再編の問題と、コミュニティの問題は大きな課題だと思うので、私はむしろこの仕組みを、このビジョンで出来たコミュニティ、まさにこのニュータウンレベルのネットワークを使って、住民が参加して作り上げていくことで、このビジョンの成果を先に進めていただければと思っている。</p>
日高(秀)議長	<p>○これで本日の議題はすべて終了したので、これにて令和2年度第3回向島まちづくりビジョン推進会議を終了させていただく。</p>
池田(京都市)	<p>○これで推進会議は終わるが、これまで議長は学区ごとに回してきた。これも何かの縁なので、最後の議長となった日高さんに一言ご挨拶を頂きたい。</p>
日高(秀)議長	<p><議長挨拶></p> <p>○何もないところから、4年間議論をしながら問題点を洗い出し、課題が見つかって、すでに成果が見えつつあるところもある。</p> <p>○しかし、肝心なのはこれからなので、ここで築いた横のつながりを基に「いつまでも住み続けたい向島」を作るために、皆さんの力を結集したいと思う。今後とも協力をお願いしたい。</p>
池田(京都市)	<p><事務局挨拶></p> <p>○4年間のご協力に感謝申し上げたい。今後はこれまでのように濃密に関わることはできないかもしれないが、京都市としてニュータウン担当の仕事があるので、引き続きよろしくをお願いしたい。</p>

以上